

明治

空冷式パッケージコンプレッサ
— エアパックス —

取扱説明書

形 式 A P - 08 C K ・ 15 C K ・ 22 C K —
 A P T - 37 C K (- 140)
 A P T - 55 C K (- 140)
 A P T - 75 A K (- 140)
 A P T - 110 A K
 A P - 20 K



当製品を完全に、また正しくお使いいただく
ために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず保存してください。

株式会社 明 治 機 械 製 作 所

目 次

安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと	2
-----------------------------	---

設置にあたっての注意事項	4
--------------	---

各部の名称とその働き	5
------------	---

お使いになる前に	9
----------	---

運転のしかた	11
--------	----

1. 始 動.....11	2. 停 止.....13
---------------	---------------

定期の点検・調整について	14
--------------	----

1. エアクリーナ.....14	2. Vベルト.....14
3. 圧力スイッチ.....15	4. 安全弁.....16

定期点検基準表	17
---------	----

不 調 診 断	18
---------	----

仕 様	20
-----	----

サービスと保証について	21
-------------	----

この度は、明治の空冷式パッケージコンプレッサ
をお買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、空冷式パッケージコンプレッサの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ正しくお
取扱いいただき、最良の状態でご使用ください。
- お読みになった後も、必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与又は譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡
してください。
- この取扱説明書を紛失又は損傷された場合、また警告ラベルが破損・剝離
・退色して見えにくくなったら速やかに当社又は当社の特約店・販売店に
ご注文ください。
- 尚、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。
その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が本製品と一致し
ない場合がありますのでご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買上げまたお近くの特
約店・販売店にお問合せください。

-  印付きの下記マークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守り
ください。



危険

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な
傷害が生じる危険性が極めて大きいことを示します。



警告

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な
傷害が生じる危険が存在することを示します。



注意

安全な取扱に対する助言、あるいは適切な事前注意を
払わなかった場合に、傷害または製品の重大な破損に
至る可能性があることを示します。

安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと



警告

- 屋外など、第三者（子供・一般の人々）が立ちいる場所で使用する時、監督者が注意を払えない場合には、代行者を置くか、防護柵を設けるか安全上必要な処置を行ってください。
- 本機で圧縮した圧縮空気は、人の呼吸用や人体には使用できません。
呼吸用・人体に使用すると呼吸困難・呼吸障害をおこし、死亡の原因となります。
- 運転中・運転直後は、コンプレッサのシリンダ・シリンダカバー・接続管は高温になっていますので、手など触れないでください。
手など触れますとやけどの原因となります。
- ベルトガードを外して運転しないでください。
回転部に、手や衣服が巻き込まれて非常に危険です。
- 運転中はプーリ・Vベルトに手指等を、近づけないでください。
回転部に巻き込まれると重大な事故を起こす危険性があります。
- 引火性のあるガス・爆発性の可燃物（アセチレン・プロパン・シンナー・ガソリン・塗料等）のない場所に設置してください。
もし使用して事故が発生すると、人身・建造物に重大な損害を互えます。
- 点検整備する時は、必ず電源を「切」にし、「整備中」であることを明らかにして空気タンクの圧力をゼロにするため、空気弁又はドレンを開けてください。

本機を清掃・点検・整備をする時は、必ず電源を「切」にして、「整備中」であることを明らかにして作業には行ってください。回転部に、手や衣服が巻き込まれたり、感電の恐れがあり大変危険です。又、圧力があるにもかかわらず、圧力計などの加圧部を交換しようとするとその部品が飛び、ケガ・建造物の破損の可能性があります。



注意

●作業前・作業後に必ず点検を！

本機を使用する前に必ず始業点検を行ない、異常個所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックして下さい。

●運転場所は、清潔で室内温度が40℃以上にならないところに

本機を運転した時に室内温度が40℃以上になる所は避け、地盤が平坦で、清潔な空気が吸入できるよう壁より60cm以上離し風通しの良い場所で運転してください。エアパック背面は（吸排気口があります）正常な性能を確保するため壁より60cm以上空間を設けてください。又、輸送時の台木は外して運転してください。コンプレッサ本体モータの損傷の原因となります。

●湿気が少なく、雨などの水滴のかからない場所で運転して下さい。

錆の発生は勿論、潤滑油の劣化・モータのショート・感電の恐れがあります。

●コンプレッサを運転中、停電があったら必ず電源を切って圧縮空気を放出して空気タンクの圧力をゼロにして下さい。

モータ損傷の原因となります。

設置にあたっての注意事項

騒音規制法、振動規制法による届出について

- 騒音規制法及び振動規制法により指定地域内（指定区域内は各市町村により指定されている）における工場または事業所に特定施設（コンプレッサの原動機出力が7.5kW以上のもの）を設置する場合、届出が必要です。
（台座が固定しているもの）

届 出

1. 工事開始前30日までに工事所在地の市町村役場の公害担当窓口へ提出しなければなりません。
2. コンプレッサの台数、騒音防止の方法と変更を行う場合に届出が必要です。
3. 用紙の請求及び問い合わせは市町村役場の公害担当窓口にいらしてください。

■第二種圧力容器の自主点検記録について

本製品の空気タンクは第二種圧力容器に該当しますので必ず次のことを守ってください。

1. 安全弁は、最高使用圧力以下で作動するように調整しておくこと。
2. 圧力計の目盛りは、最高使用圧力を示す部位に見やすいように赤で表示しておくこと。
3. 毎年1回以上次の事項について定期自主点検を行ってその結果を記録し、3年保存しておくこと。
 - 1) 本体の損傷の有無
 - 2) ふたの締付ボルトの摩耗の有無
 - 3) 管及び弁の損傷の有無

第二種圧力容器自主検査点検記録

書式例

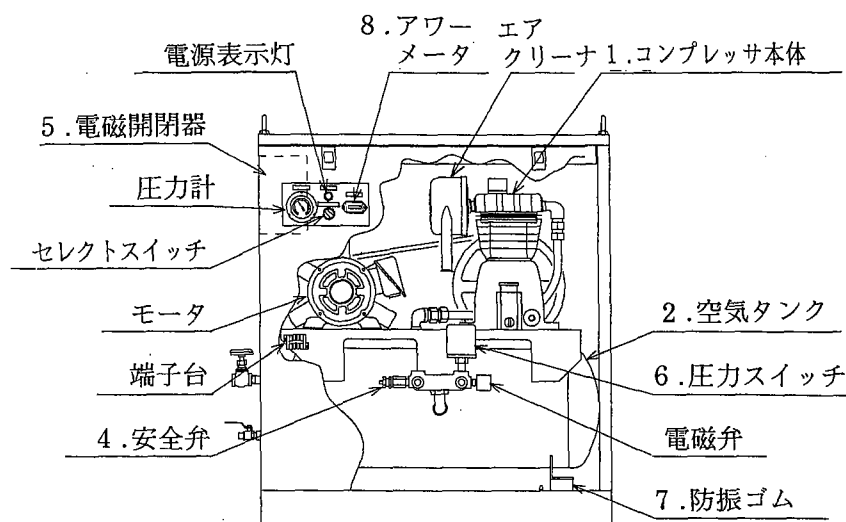
検査年月日 年 月 日		検査者氏名				事業者印
検査項目及び点検事項		状態異常				状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1. 銅・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふたの締付ボルトの摩耗						
管及び弁の損傷						

前記の各項は「労働安全衛生法」に定められており、違反のないよう十分ご注意下さるようお願い致します。

各部の名称とその働き

■ A P - 08 K ・ 15 C K ・ 22 C K

使用空気量の大小により断続・連続運転を手動で切り換え制御する空気圧縮機です。



1. コンプレッサ本体

圧縮空気を製造する本体です。

2. 空気タンク

コンプレッサ本体で製造された圧縮空気を貯蓄する容器です。

3. ドレン弁

空気タンク内に溜まった水・油・錆等を排出させる弁です。

4. 安全弁

空気タンクの圧力が規定圧力1.08MPa (11kgf/cm²) になると作動してモータの損傷、空気タンクの破裂を防止する安全装置です。

5. 電磁開閉器

過電流が流れるのを防止し、モータを損傷から守る装置です。

7. 防振ゴム

空気圧縮機本体で発生した振動をとり、パッケージに振動を伝えない装置です。

6. 圧力スイッチ

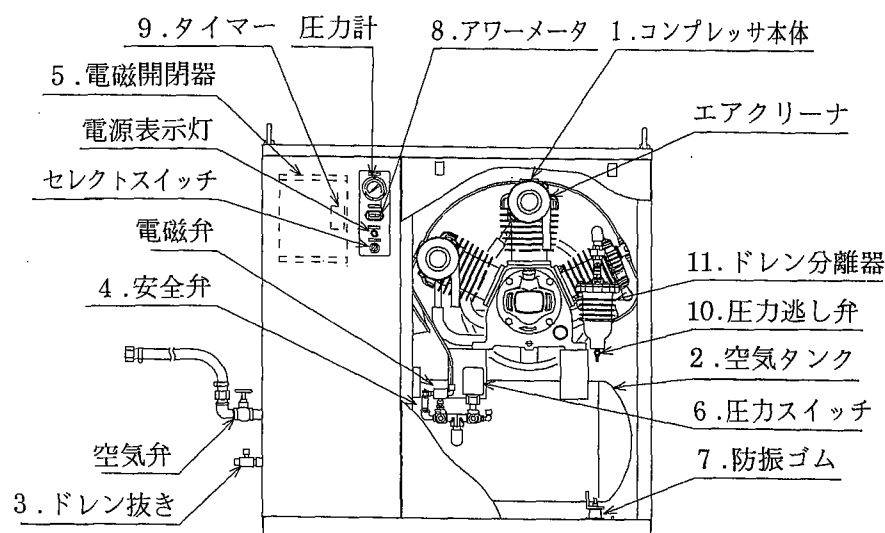
断続運転時、空気タンク圧力が0.98MPa (10kgf/cm²) まで上昇すると自動的にモータの運転を停止させ、0.74MPa (8kgf/cm²) まで圧力が下がると自動的にモータの運転をさせる装置です。

8. アワーメータ

運転時間を表示し、定期点検等の目安となる装置です。

■ APT-37K(-140)・55CK(-140)・75AK(-140)

使用空気量に応じて連続運転か断続運転か自動的に選択し、制御する空気圧縮機です。



1～8はAP-08CK・15CK・22CKを参照してください。

9. タイマー

全自動運転制御を行う装置です。

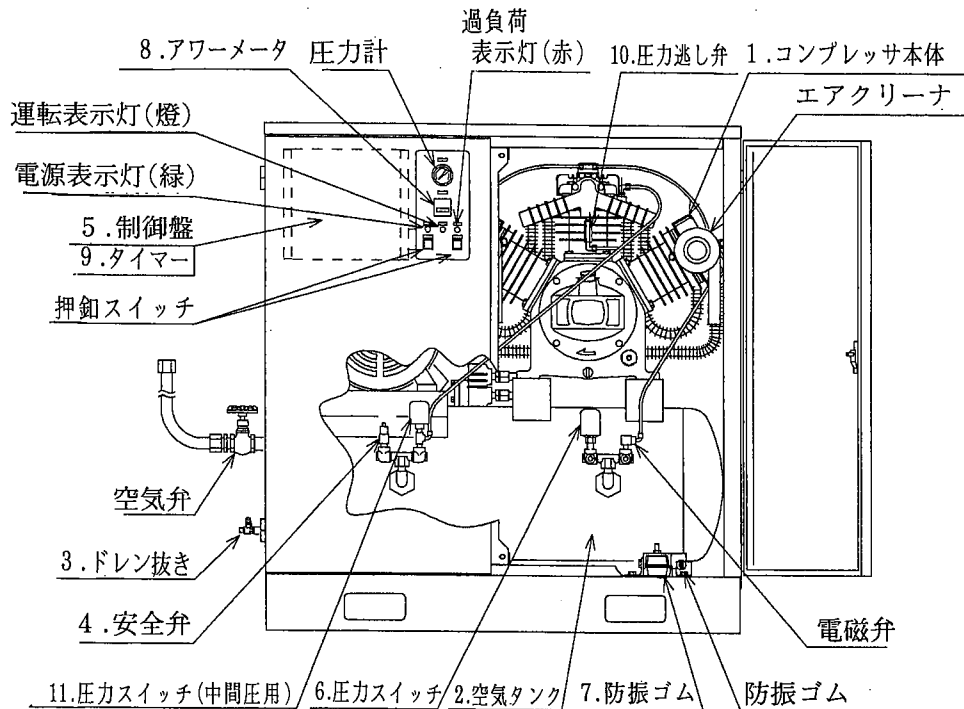
10. 圧力逃し弁

中間段のドレン・圧縮空気を排出しアンロード中の負荷（入力）を下げます。

11. ドレン分離器【APT-37CKは除く】

一段側で圧縮された空気中に含まれた水分を除去します。

■ A P T - 110 A K



1～10はAPT-37CK・55CK・75AKを参照してください。

11. 圧力スイッチ (中間圧用)

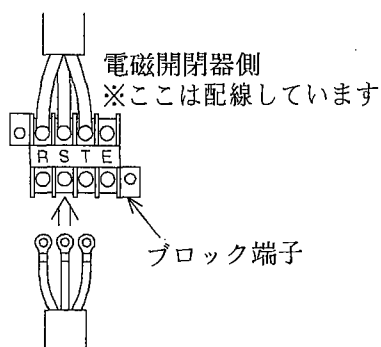
吸入弁・吐出弁等が破損した場合に中間段圧力を感知し、直ちに圧縮機を停止させ、大きな事故を防止する装置です。

(この圧力スイッチが作動しますと、計器パネル部の赤ランプが点灯し、停止します。その他、サーマル・オイルセンサ等が作動した場合にも赤ランプが点灯し停止します。)

お使いになる前に

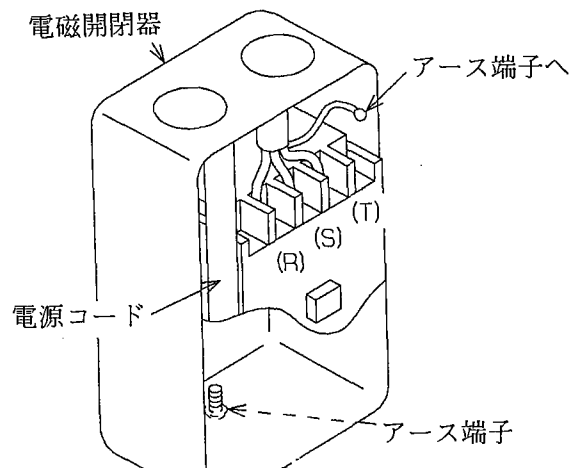
●端子台又は、電磁開閉器に電源コードを配線して下さい。

AP-08CK・15CK・22CK
APT-37CK(-140)



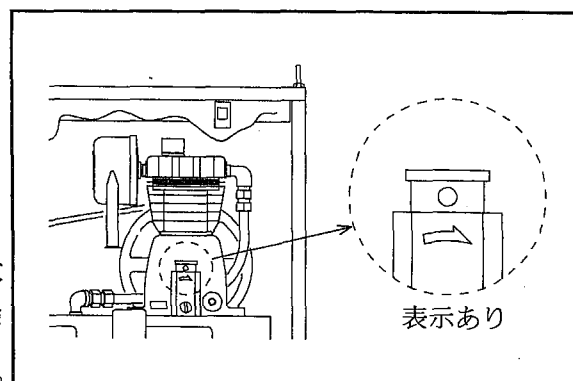
正面のゲージパネルを開け電磁開閉器のカバーを外して下さい。
左側面パネル下部の電源コード引き込み口より電源コードを引き込み空気タンクのモータベクトに付いてあるブロック端子のR・S・Tへ接続して下さい。

APT-55CK(-140)・APT-75AK(-140)
APT-110AK・AP-20K



正面ドア、又は正面パネルを開け電磁開閉器のカバーを外して下さい。
左側面パネル下部の電源コード引き込み口より電源コードを引き込み電磁開閉器のR・S・Tへ接続して下さい。

- ・配線長さは30m以下として下さい。
- ・電源コード4芯を使用し、感電防止のためアースを必ずとって下さい。
- ・配線後、回転方向を確認して下さい。
正面パネル側から見て右回転です。
逆回転した場合は、電源コード3本のうち2本を入れ換えてください。そのまま逆回転で使用しますと空気圧縮機の焼付きの原因となります。



出力(kW)	電 源	コード太さ(mm ²)	ヒューズ容量(A)	アース線(mm ²)
0.75	単相100V	3.5	30	3.5
	三相200V	2.0	15	2.0
1.5	"	2.0	15	2.0
2.2	"	2.0	20	2.0
3.7	"	3.5	30	3.5
5.5	"	3.5	50	3.5
7.5	"	8	75	8
11	"	14	100	14
15	"	14	100	14

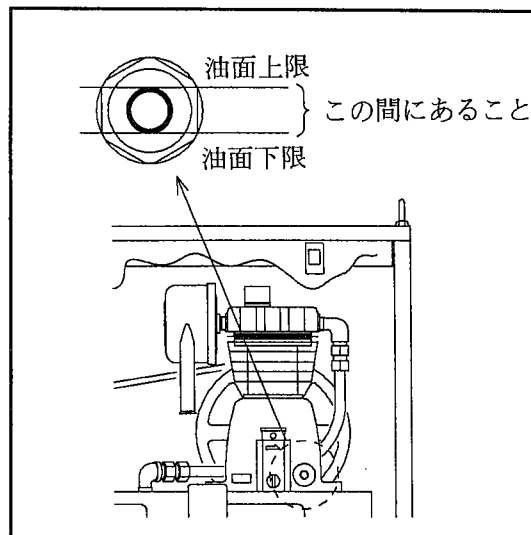


前頁に示されている以外の細いコードを使用されますと、モータの損傷の原因となります。また、コードが発火し家屋等の火事になる原因にもなります。

電気事情の悪い場所、配線が長くなる場所は、お買い求めになった販売店にご相談下さい。

●潤滑油は作業前、作業後に必ず点検を

潤滑油は作業前、作業後に必ず点検を行い油面計の赤丸の間にあるように補給又は交換して下さい。



明治純正の潤滑油又は指定潤滑油を使用して下さい。

それ以外の潤滑油を使用されますとカーボンの蓄積やオイルアップの原因となります。

明治純正コンプレッサオイル CO100

運転のしかた

1. 始動

- (1) 空気タンクの圧力をゼロにするため
空気弁又はドレン弁を開けて下さい。
- (2) 主電源を入れてください。
(計器パネルのランプが点灯します。)
- (3) 切り換えスイッチ又は、押釦スイッチ
を入れてコンプレッサを始動させて
ください。

1) 切り換えスイッチ (断続・連続)

【機種 AP-08CK・15CK・22CK】

使用空気量の大小により、断続・連続
運転を選択し手動で制御を切り換
える方式です。

★断続運転で使用している場合、コン
プレッサが規定圧力に達し停止して
から所定の圧力まで降下し再起動す
る時間（コンプレッサが停止してい
る時間）が20秒以内の場合は連続運
転で使用したほうが電気機器の保護
になります。

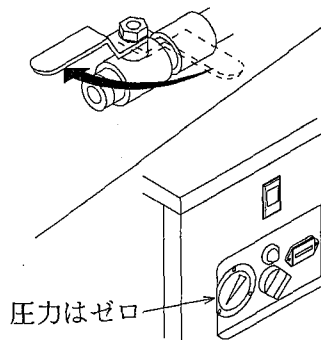
2) 押釦スイッチ・切り換えスイッチ (入・切)

【機種 APT-37CK(-140)以上】

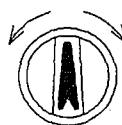
使用空気量に応じて連続運転か、断
続運転か自動的に選択して運転しま
す。

- (4) コンプレッサの暖機運転を十分行っ
た後空気弁又はドレン弁を閉じて空
気タンクの圧力をあげて下さい。

空気弁又は、ドレン弁を開けて



断続・切・連続

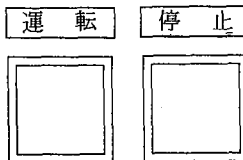


AP-08CK
AP-15CK
AP-22CK

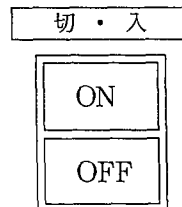
断続運転か連続運転
を選択 (手動)

切・入

APT-37CK(-140)
APT-55CK(-140)
APT-75AK(-140)



APT-110AK



AP-20K

スイッチを入れるだけで断続運転・
連続運転を自動的に選択

(5) 圧力が徐々に上がり

【機種 AP-08CK・15CK・22CK】

連続運転を行っている場合は、圧力が0.98MPa (10kgf/cm²) になると圧力スイッチが自動的に作動し、電磁弁を働かせ圧縮運転をやめます。

それでもモータは依然として回転しています。

圧力が0.78MPa (8 kgf/cm²) まで下がると自動的に圧縮運転に切り替わります。

断続運転を行っている場合は、圧力が0.98MPa (10kgf/cm²) になると圧力スイッチが自動的に作動しモータが停止します。

圧力が0.78MPa (8 kgf/cm²) まで下がると自動的に圧力スイッチが作動し圧縮運転を始めます。

【機種 APT-37CK(-140)以上】

圧力が0.98MPa (10kgf/cm²) 〔又は1.37MPa (14kgf/cm²) 〕になると圧力スイッチが自動的に作動し、電磁弁を働かせ圧縮運転をやめアンロード運転となります。アンロード運転が30秒以上経過すると圧縮機は自動的に停止します。

圧力が0.78MPa (8 kgf/cm²) 〔又は1.18MPa (12kgf/cm²) 〕まで下がると自動的に圧力スイッチ が作動し圧縮運転を始めます。

〔 〕はAPT37CK-140・APT55CK-140・APT75AK-140です。

正常に作動することを確認した後作業を始めて下さい。



アンロード運転の時間設定は工場出荷時、30秒に設定していますが、60秒まで設定可能です。

尚、30秒以上には設定しないでください。コンプレッサ損傷の原因となります。



危険

安全弁は必ず規定圧力内で吹き出すよう定期点検を怠らないで下さい。

【規定圧力 1.08MPa (11.0kgf/cm²)〔又は1.47MPa (15.0kgf/cm²)〕】

モータの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり重大なケガ・死亡の原因となります。

〔 〕内はAPT37CK-140・APT55CK-140・APT75AK-140です。

(調整方法はP16を参照してください。)



注意

圧力スイッチが作動せず0.98MPa (10kgf/cm²)〔又は1.37MPa (14kgf/cm²)〕になってもアンロード運転しない又は、モータが停止しない、それ以上に圧力が上昇する。このような場合は、0.98MPa (10kgf/cm²)〔又は1.37MPa (14kgf/cm²)〕以下で作動するように調整して下さい。モータの損傷の原因となります。

〔 〕内はAPT37CK-140・APT55CK-140・APT75AK-140です。

(調整方法はP15を参照してください。)

2. 停止

(1) 運転スイッチを切って下さい。

★スイッチを切る場合、コンプレッサがアンロード又は、停止している時に切ると電磁開閉器の保護になります。

停止が長時間になる場合は、安全のため主電源も切ってください。

(2) 空気タンクの圧力がゼロにならないうちに、ドレン弁を開放してドレンと圧縮空気を排出してください。



警告

ドレン弁を開ける時は、まわりに人がいない事を確認し、徐々

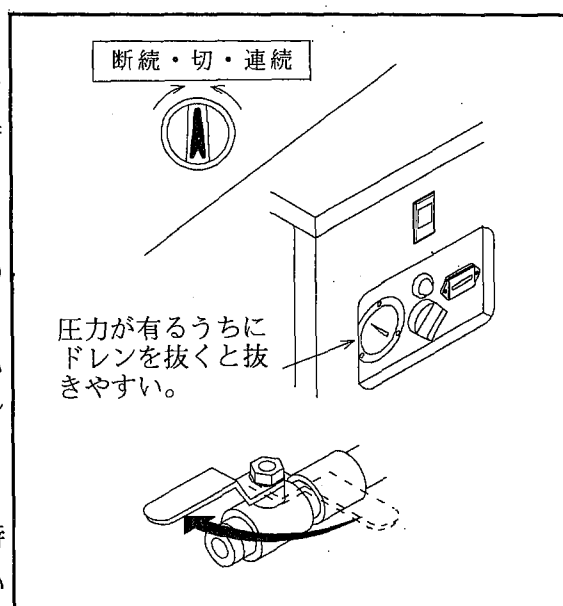
に開けて下さい。急に開けるとドレンがいきに出て危険です。

ドレン弁を開けてドレンを排出中はドレン弁の前に手を出さないでください。異物(錆び等)が飛び出しけがをすることがあります。



注意

停電したときは、電源を切る・空気タンクの圧力をゼロにすることを励行してください。

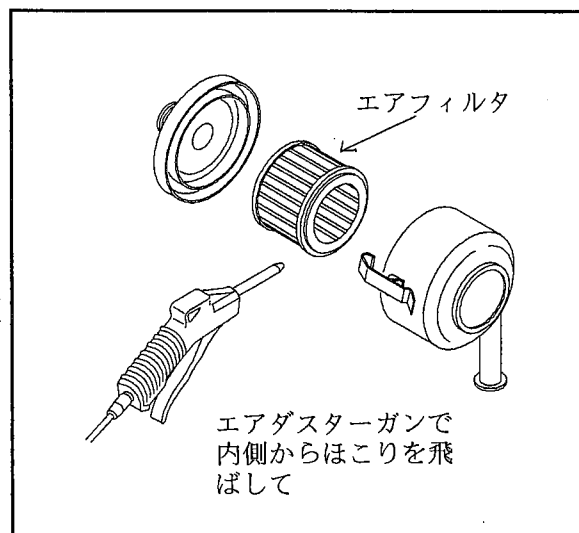


定期の点検・調整について

1. エアクリーナ

エアクリーナは、一定の空気量を吐き出させるために、エアフィルタを常に清潔な状態に保ってください。

軽くたたく又は、圧縮空気ではこりを飛ばして、エアフィルタを清潔にしてください。きれいにならないときは交換してください。



警告

エアダスターガンを使用して清掃する時は、保護眼鏡を使用してください。使用しないと目にゴミなどが入る事があります。

エアダスターガンは人に向けないでください。怪我をする事があります。

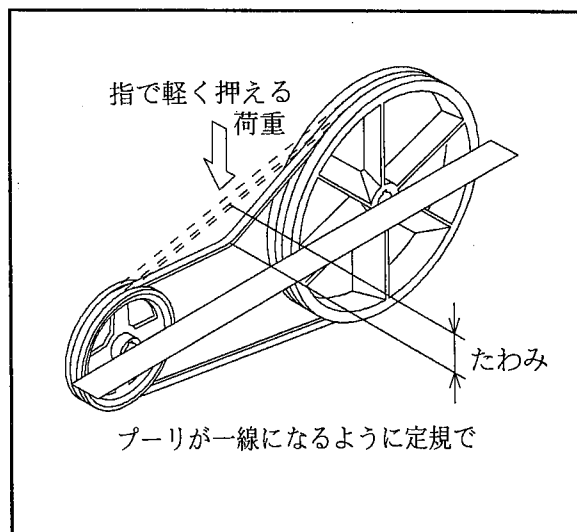


注意

エアフィルタを清掃しないで運転を続けていると、オイルアップが激しくなり、コンプレッサの損傷の原因となります。

2. Vベルト

Vベルトの張りがゆるいと、Vベルトがスリップしてコンプレッサの性能を十分に発揮させることができません。また、Vベルトの寿命も短くなり振動の原因になります。あまり強く張りすぎないようにVベルトを張ってください。



	荷重 (kg)	たわみ (mm)	適用機種
A ベルト	1.25	7～10	AP-08CK・15CK・22CK APT-37CK・55CK APT37CK・55CK-140
B ベルト	2.5	7～9	APT-75AK APT-110AK AP-20K APT75AK-140

3. 圧カスイッチ

圧カを一訂の範囲で保ち、手動切り換え連続・断続運転制御又は、全自動運転制御させるスイッチです。

0.98MPa (10kgf/cm²) [又は1.37MPa (14kgf/cm²)] でアンロード運転に切り換わり又は、モータが停止し、0.78MPa (8kgf/cm²) [又は1.18MPa (12kgf/cm²)] でモータが回転し圧縮運転を始めます。

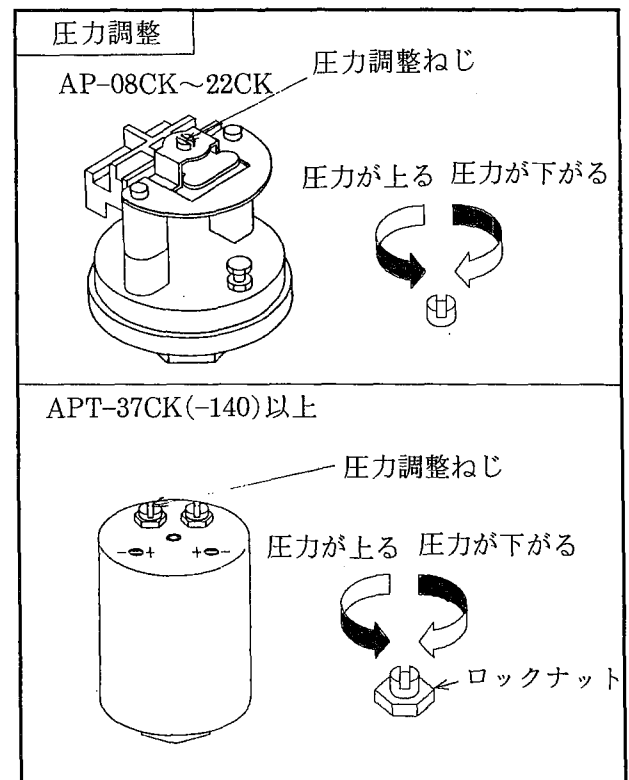
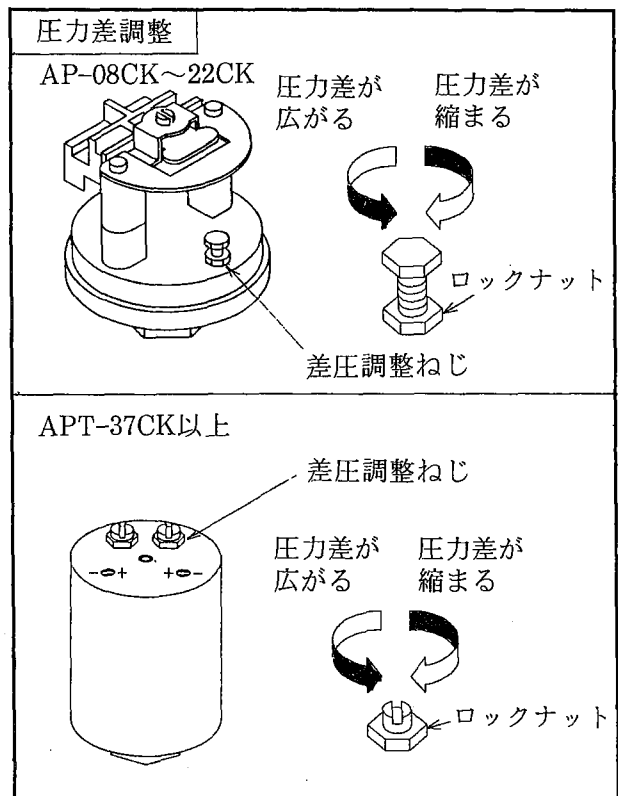
この繰り返し運転ができず、0.20MPa (2kgf/cm²) の圧カ差がないときは、差圧調整ねじのロックナットを緩めて左に回してください。

逆に0.20MPa (2kgf/cm²) 以上あるときは、右に回して調整してください。

0.98MPa (10kgf/cm²) [又は1.37MPa (14kgf/cm²)] になっても、アンロード運転に切り換わらない又は、モータが停止しないときは、圧カ調整ネジのロックナットを緩めて右に回してください。

0.98MPa (10kgf/cm²) [又は1.37MPa (14kgf/cm²)] 以下で停止するときは、左に回して調整して下さい。

[] 内はAPT37CK-140・APT55CK-140・APT75AK-140です。



注意

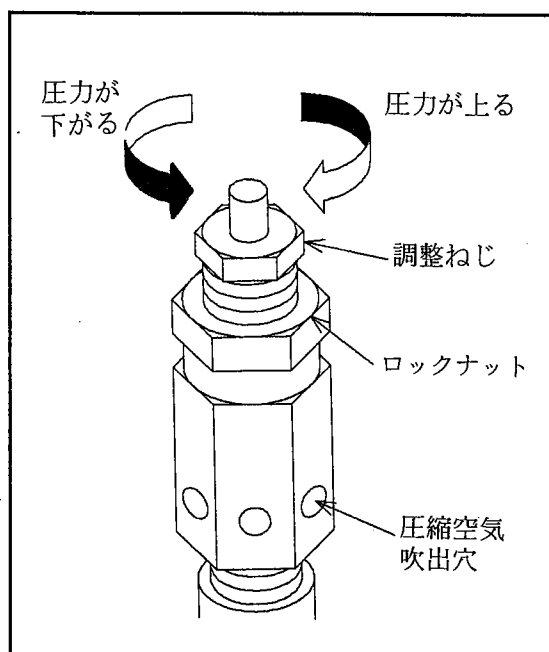
0.98MPa (10kgf/cm²) [又は1.37MPa (14kgf/cm²)] 以上で運転しないでください。モータの損傷の原因となります。
[] 内はAPT37CK-140・APT55CK-140・APT75AK-140です。

4. 安全弁

安全弁はコンプレッサ・モータの損傷、空気タンクの破裂から守る大切な安全装置です。

1.08MPa (11.0kgf/cm²) [又は1.47MPa(15.0kgf/cm²)] 以上にならないと吹き出さないときは、ロックナットを緩めて調整ねじで圧力を下げてください。

それでも調整できないときは、圧力をゼロにして分解掃除又は、交換してください。



[] 内はAPT37CK-140・APT55CK-140・APT75AK-140です。



危険

安全弁は必ず、規定圧力内で吹き出すように調整してください。

モータの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり、重大なケガ・死亡の原因につながります。

定期点検基準表

1. コンプレッサの性能・寿命を維持し、長時間良好な状態で運転するには保守点検を充分に行うことが必要です。
2. 点検時期はコンプレッサの使用状況、取扱い方法などにより異なり、一概には決めにくいものですが、一応の目安として下表に示します。
使用時間、運転時間のいずれか一方を点検時期の計算値として御考慮ください。
3. 空気タンクが第二種圧力容器に該当するコンプレッサを使用される方は、1年以内ごと1回、自主検査を行いその記録を3年間保存してください。

点 検 個 所	点 検 事 項	使用期間 運転時間			毎 日	半月ごと	1ヵ月ごと	2ヵ月ごと	3ヵ月ごと	6ヵ月ごと	1年ごと	2年ごと	備 考
		使用前	使用中	使用后	100時間 ごと	200時間 ごと	400時間 ごと	600時間 ごと	1200時間 ごと	2400時間 ごと	4800時間 ごと		
油 面 計	油量点検・補給	○											中性洗剤で洗って下さい。
異常音・異常振動	点 検		○										
空 気 タ ン ク	ドレン抜き			○									
空 気 タ ン ク	清 掃										○		
吸 込 る 過 器	清 掃					○							
V ベ ル ト	張力点検・張り調整				(第1回目) ●				(第2回目) ○		▲		
潤 滑 油	全 量 交 換				(第1回目) ●		(第2回目) ●		(第3回目以降) ○				
ボルト・ナット	ゆるみ点検・増締め					(第1回目) ●					(第2回目以降) ○		
吸込弁・吐出し弁	清掃・カーボン除去							○			▲		
アンロードパイロット弁	作 動 確 認		○										
	分 解 ・ 清 掃								○				
圧力スイッチ	作 動 確 認		○										
安 全 弁	作 動 確 認								○				
空 気 洩 れ	点 検		○										
ベ ル ト 車	ゆるみ点検					○							
モータプーリ	ゆるみ点検					○							
圧 力 計	点 検 ・ 矯 正										○		
空気圧縮機全体	分解・清掃・整備										○		
シリンダ内径	摩耗量点検											○	
ピ ス ト ン	外 径											○	
	圧力リング											○	
	オイルリング											○	
	ピン外径											○	
クランク軸ピン外径	摩耗量点検											○	

表中 ●印は、初めて運転する場合に限ります。

▲印は、部品の交換時期です。

不調診断

(1) 圧縮機

状 況	原 因	処 置
異常音・異常振動	弁プレート取付ねじのゆるみでプレートが躍る	ねじを締付ける
	クランクピン軸受摩耗	交換する
	ベルト車締付ボルトのゆるみ	ボルトを締付ける
	ベルトの芯がでていない	ベルトを平行に張りなおす
	各締付部ボルト・ナットのゆるみ	各部点検し締付ける
	玉軸受に異物混入または摩耗	分解洗浄または交換
吐出し空気の過熱	吐出し弁プレートの損傷	交換する
	吐出し弁プレートにカーボン付着	分解・掃除
	ベルト車逆転	配線手直し、正転とする
圧力が上らない 圧力上昇が遅い	吸込・吐出し弁プレートの漏えい又は損傷	交換する
	締付部からの漏えい	締付ける
	圧力計の故障	圧力計交換
	アンローダ、圧力スイッチの操作・調整不良	分解掃除、調整、交換
	Vベルトのゆるみ	規定の張りに直す
潤滑油がなくなる	ピストンおよびシリンダ摩耗	ピストンおよびシリンダ交換またはオーバーホール
	圧力リング、オイルリングの摩耗	交換する
	ピストンリングを上下逆に組込む	刻印を上にして組み、合い口を同方向としない
運転中の急停止	摺動部の焼付き	焼付部品の交換
	電圧降下	電源の点検
	圧力の異常上昇による過負荷	アンローダ、圧力スイッチを調整
	ヒューズ切れ	取替え
	部品の破損	破損部品の交換
	過負荷異常温度表示灯の点灯	サーマル、温度センサ、オイルセンサの作動

(2) 圧力スイッチ・電磁弁

状 況	原 因	対 策
圧縮機がスムーズ に起動しない	電磁弁の異常	電磁弁の交換
	ドレンフィルタの詰り	ドレンフィルタの分解・掃除
無圧縮時間が長い	圧力スイッチの詰り	圧力スイッチの交換
	電磁弁ノズルの詰り	電磁弁ノズルの掃除

異常ランプの点灯原因

(1) 電磁開閉器とサーマルリレーの作動

- ①パイロット弁及び圧力スイッチの設定圧力を高くして使用した場合
- ②吸込弁・吐出弁が不良になり再圧縮した場合
- ③電圧変動あり、低電圧になった場合
- ④配線が細い場合、又は、配線の結線不良（ビスの緩み等）がある場合
- ⑤圧縮機の接続管内にカーボンが異常に付着し、空気の流れが悪くなり、シリンダヘッド内の圧力が異常に高くなる場合

(2) 温度センサの作動（15kW）

- ①圧縮機周囲温度が40℃以上になっている場合
- ②吸込・吐出ダクトにゴミ等が詰り、ふさがれている場合
- ③換気ファンが止っている場合
- ④接続管・フレキシブルチューブ・管継手・タンク内に蓄積したカーボンが異常に発熱し、タンクが加熱された場合

(3) 中間段圧力スイッチの作動（11kW）

吸込・吐出弁等の破損

(4) オイルセンサの作動（15kW）

潤滑油の減少

*上記の(1)～(3)の場合は弊社指定のサービス店に連絡し、修理を依頼してください。(4)の場合は潤滑油を補給して下さい。

仕 様

コンプレッサ本体仕様

形 式	出 力	シリンダ径×行程×シリンダ数	クランク室内の上限油量 ℓ	作 動 圧 力 MPa(kgf/cm ²)	質 量 kg
	kW				
GNO1C-08CK	0.75	65×40×1	0.2	0.78～0.98 (8～10)	17
GNO2C-15CK	1.5	65×70×1	0.4		24
GNO3C-22CK	2.2	65×56×2	0.6		31
GTNO-5C	3.7	90/48×90×1/1	1.4		54
BTN-55C	5.5	90/65×72×2/1	1.7		70
BTN-75	7.5	110/90×76×2/1	1.7		102
GTNO-15A	11	110/90×106×2/1	3.2		115
NNO-20	15	90×100×6	4.4		181

コンプレッサ仕様

形 式	出 力	コンプレッサ 本体形式	作 動 圧 力 MPa(kgf/cm ²)	回 転	吐 出 し	タンク 容 積 ℓ	空 気 取	全幅×奥行×高さ mm	質 量
	kW			速 度 r.p.m	空 気 量 ℓ/min		出 し 口 B		モータ付 kg
AP-08CK	0.75	GN01C -08CK	0.78～0.98 (8～10)	1040	80	29	1/2	755×620×840	99
AP-15CK	1.5	GN02C -15CK		975	160				116
AP-22CK	2.2	GN03C -22CK		985	245				129
ATP-37CK	3.7	GTNO-5C		950	410	35	3/4	850×650×860	190
APT-55CK	5.5	BTH-55C		820	600	86		1120×800×1100	284
ATP-75AK	7.5	BTN-75		730	850				329
APT-110AK	11	GTNO-15A		750	1200	133	1	1270×870×1350	520
AP-20KST	15	NNO-20		660	1650	39+160 (サブタンク)		1050×1100×1320	650+75 (サブタンク)
ATP-37CK -140	3.7	GTNO-5C	1.18～1.37 (12～14)	850	380	39	1/2	850×650×890	206
APT-55CK -140	5.5	BTN-55C		760	540	91	3/4	1120×800×1130	303
APT-75AK -140	7.5	BTN-75		640	750				348

この仕様は予告なしに変更することがあります。

サービスと保証について

●保証について

コンプレッサの無償サービス期間は、本機を出荷した時点から12ヶ月又は2400時間です。

ただし、期間中でも需要家側の取扱上の過失や、故意に起こした事故、故障については保証いたしません。

また、消耗品や交換の必要な部品は明治純正部品をお使いください。純正部品以外のものを使用して故障した場合、クレームの対象にならないことがあります。

●アフターサービスについて

機械の調子の悪いときに点検・処置しても、なお不具合があるとき、不審な点及びサービスに関しては、特約店・販売店又は当社営業所にお問合わせください。

連絡していただきたい内容

- ・形式 ・製造番号
- ・故障内容（できるだけ詳しく）

